

経営比較分析表（令和4年度決算）

奈良県 広陵町

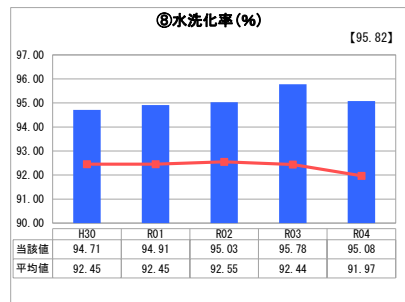
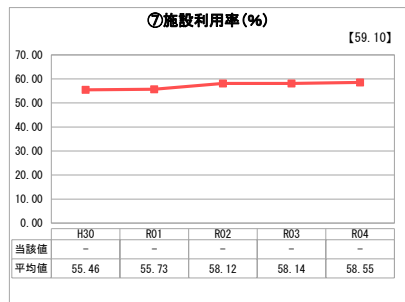
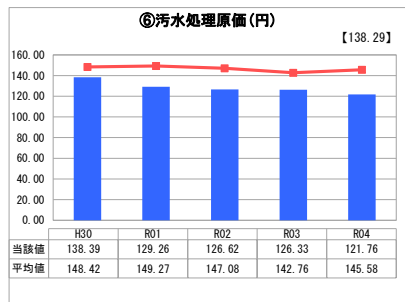
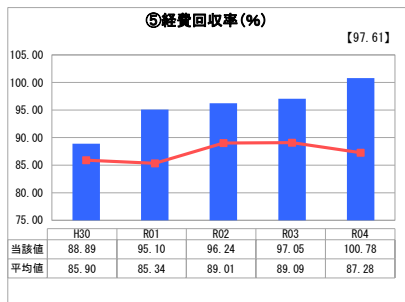
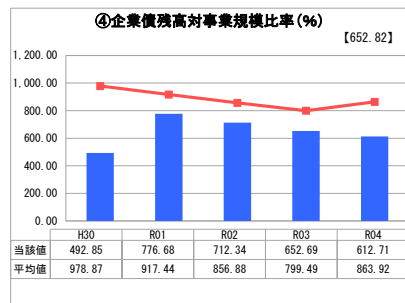
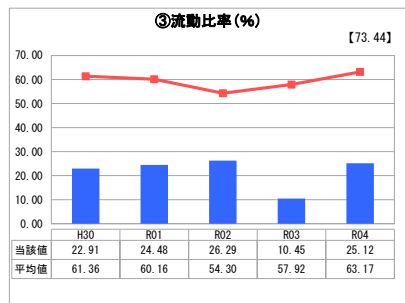
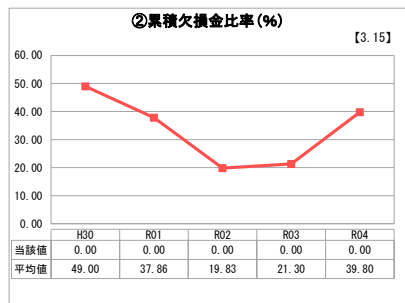
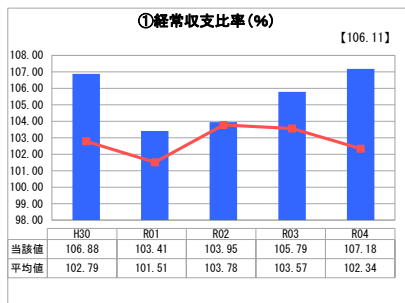
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cb1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	72.68	72.58	86.91	2,640

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
35,284	16.30	2,164.66
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
25,564	4.39	5,823.23

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

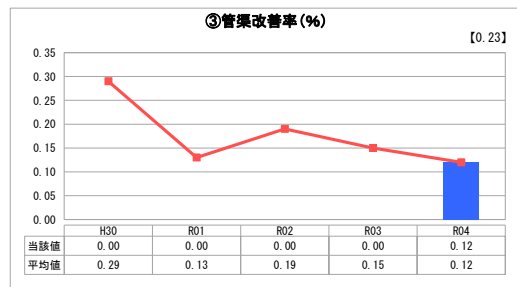
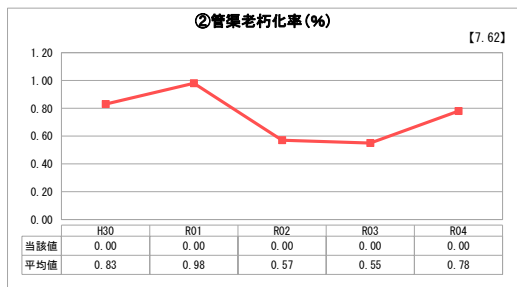
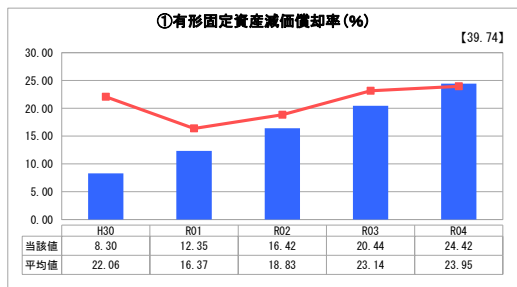


1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率、⑤ 経費回収率は100%を超えており、経営は健全といえるが、③ 流動比率が低い。企業債の償還金が多額なのに対して現預金が少ないためであり、令和3年度は負担割合の見直しのため特に低くなっていたが、若干改善されたものの、類似団体と比べると低い。企業債償還のピークは平成29年度に迎え償還額が年々減少しており、今後徐々に改善されると考える。

⑥ 汚水処理原価が徐々に低くなってきており、企業債償還のピークを過ぎ改善されてきていると考える。

2. 老朽化の状況



2. 老朽化の状況について

昭和58年4月に供用開始して以来40年が経過している。法定耐用年数を超える施設は今のところないが、老朽化が進んでいる箇所については、カメラ調査を行い管路更新工事を実施している。令和2年度に策定した「下水道ストックマネジメント計画」に基づいて順次管更生を実施している。

全体総括

昭和58年4月に供用開始して以来40年が経過している。法定耐用年数を超える施設は今のところない。令和2年度に「下水道ストックマネジメント計画」を策定したので、計画に基づいて順次管更生を実施していく予定であるが、老朽化が進んでいる箇所については、カメラ調査を行い管路更新工事を行っている。今後、管路更新工事の実施は財政と投資のバランスを考慮し、経営戦略に反映させ安定した経営を行う。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。